

## 金立小学校教育の質的改善 ～深い学びに向かう児童の育成をめざして～

### 1 主題設定の趣旨

#### （社会の情勢や国の動向）

令和 2 年度(2020 年度)、小学校で新学習指導要領が全面実施となって 4 年が経過した。また、令和 3 年 1 月には『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）において、学習指導要領の趣旨の実現に向けて「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させていくということが強く打ち出されたところである。子どもたちが「何をどのように学び、何ができるようになるか」と言ったような視点に立ち、新しい時代に求められる資質・能力を育むための教育活動をさらに充実させていくことが求められているのである。

全ての教科・領域において「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」という 3 つの柱で整理された資質・能力を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が必須であり、また、手立てとしての ICT 活用をより推進するなどしながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることが重要となる。そのためには、まず教師自身が自らの授業や指導としっかりと向き合い、「主体的・対話的で深い学び」の視点で普段の授業を不断に見直し、必要に応じて改善を図ることが不可欠であると考ええる。

#### （令和 4 年度までの本校の校内研究の成果と課題）

このような中、これまでの本校の校内研究を振り返ると、「めざす児童のすがた」を明確にして、教師間で共有してきたことは一つの成果であるといえる。また「深い学びに向かう児童」を育成していくための授業づくりを研究の主題に据え、「授業づくりチェックシート」を活用した授業改善に取り組んできた。研究授業では、問題解決型の授業展開を中心に行い、学年グループで学習指導案を練り合い、授業後は成果と課題について全体で協議するというスタイルで行ってきた。このような校内研究において得られる成果も多くあったと思うが、一方で個々の教師の日々の授業改善にはあまり結び付いていなかったのではないかとという反省もある。例えば、「提案授業を行うことは勉強になるが、そのことと普段の授業がなかなか結び付いていなかった」「算数科以外での教科では授業づくりチェックシートを活用できなかった」といったような声があり、時間をかけて取り組んできた校内研究が日常の授業実践にはあまりつながっていなかったのではないかと推察する。また本校の教師の年齢構成は経験豊富なベテラン教師と新規採用間もない若手の教師が多く、ミドル層が極めて少ない。当然、ベテラン教師と若手教師では解決すべき自らの課題も目指す目標も大きく異なっていると考えられる。

#### （令和 5 年度 校内研究の概要）

そこで、全ての教師一人一人にとって価値のある校内研究をするため、本校では令和 5 年度から、個々の教師の「課題解決」を図る校内研究へと大きな転換を図ってきた。それは、個々の教師がそれぞれに自らの「課題」を解決するために、年間を通して「授業実践」を行い、その営みを校内で「共有」していくという研究である。ベテラン教師も若手教師もそれぞれに自らの「課題」を解決していくために、年に一度の「研究授業」といった非日常ではなく、普段の授業や取組を不断に見直し、その質的改

善を図ってきた。「質的改善」とは、これまで取り組んできたことに対して「それは何のために行っているのか」「そのことで子どもにどのような力が付くのか」「果たして本当に力は付いているのか」といったような視点で見直しを図り、本当に意味のある取組としていくことである。また、個々の教師の課題解決のためには、教師自らが学ぶ意志や意欲をもち、自らを律しつつ、自己責任を果たしていくことが重要である。つまり学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」を、まずは教師自身が実践するという研究でもあった。

### （令和5年度 校内研究の成果と課題）

令和5年度、本研究に取り組んでみての教師による評価は概ね良好であり、次年度もこの方向性で校内研究を進めることへの肯定的な意見が多かった。一方で、年間を通して1回はしっかりとした学習指導案を書いた研究授業を行うべきであるという意見もあった。また、課題としては、個々の教師がしっかりとした課題意識と一年間の見通しをもって取り組まないと「年間に4回の授業を行う」こと自体が目的になってしまうことや、教師一人一人の自主性に委ねられている部分が大きいため、計画的に実施できなかった教師がいたこと、特別支援学級においては、相互の授業参観が難しいことなどが挙げられた。令和5年度から新たな校内研究に取り組んできたことの成果と課題をしっかりと受け止め、今年度の研究に生かしていくことが求められる。

以上のことを踏まえ、令和6年度の研究では、これまで本校の校内研究で積み上げてきたものを大切にしつつ、令和5年度の研究を継続し、さらに深化・発展させていくこととする。国語科、算数科、音楽科などを中心に幅広い教科において研究に取り組み、これまで以上に、「授業づくりチェックシート」を活用することで、児童の主体性を喚起し、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成を図るために授業の質的改善に取り組む。

## 2 研究の目標

「授業づくりチェックシート」を基に、教師一人一人が自らの「強み」と「課題」を明らかにして、継続的に授業力向上を図ることで、児童が「主体的・対話的」に学ぶことできる授業を展開し、児童一人一人の「深い学び」の実現をめざす。

## 3 研究の内容

- （1）「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るための「学習の約束」の見直し
- （2）「授業づくりチェックシート」を活用した授業の質的改善

## 4 研究の方法

- （1）「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るための「学習の約束」の見直し  
現在、全学年共通に設定している「学習の約束」を、学習規律の定着のみならず、児童の「主体的・対話的で深い学び」を実現できるものとするために、本校でこれまで設定していた「めざす児童の姿」の大切なポイントを生かしながら、学年段階（低・中・高）に応じて見直しを図る。
- （2）「授業づくりチェックシート」を活用した授業の質的改善  
・「授業づくりチェックシート」を基に、自らの「強み」「課題」を洗い出し、年間を通して取り組む課題を明らかにする。（ここでいう課題とは、改善したい点、よりレベルアップを図りたい点など）

- ・単元（題材）や本時の評価規準、課題解決のための手立てなどを記した「授業構想シート」（A 4）を作成し、年間4回（1学期1回、2学期2回、3学期1回）の小グループ（またはペア）による授業公開を行う。（内野先生は指導案を作成しての初任研の研究授業をもって代える）
- ・授業後は授業の自己評価・他者評価ができる評価シートを準備し、できるだけ間を置かず、その評価結果を参考にしながら、小グループで授業についての振り返りを行って記録し、その後の授業改善につなげる。
- ・「研究のまとめ」は年間を通して作成していく。年間4回の授業の記録はその都度、記録する。また、年度末に、年間を通した自らの課題解決の状況についての振り返り（A 4で1ページ）を執筆する。これを全員分取りまとめて「研究のまとめ」とする。
- ・「授業づくりチェックシート」については、より実効性が高く、個々の教師の振り返りがしやすいように年間を通して見直しを図る。

## 【本取組の大まかな流れ】

### 年度当初

- ・「めざす児童のすがた」を低・中・高学年ごとに見直しを図る。（全ての教師）
  - ・「授業づくりチェックシート」及び「学習の約束」についての見直しを図る。（学び部の提案）
  - ・特別支援学級（みのり学級）については、共通に取り組むことができる部分とそうでない部分を精査し、別途、研究の進め方を確認する。
- ① 「授業づくりチェックシート」を基に、自らの「強み」「課題」を洗い出す。
  - ② 自らの授業における課題、及びその改善の手立てについて個人で考え、小グループ内で情報交換を図ってブラッシュアップする。
  - ③ 各自、授業を実施する教科、時期、単元（題材）などの計画を作成する。
  - ④ 全体研において、それぞれが取り組む課題や授業実施計画について公表し、全体で共有する。

### 事 前

- ・1週間前までに実施する校時、教科、単元などを研究主任と教務主任に伝える。  
教務主任は小グループのメンバーが授業参観できるように調整を図る。
- ・課題改善の手立てを記した「授業構想シート」を作成し、2日前までに全教職員に配付する。  
（さらに、所定の場所にデータ保管し、誰でも見るようにしておく）

### 本 時

- ・参観するメンバーは、授業の妨げにならないように参観する。（勝手に指導したりしない）  
また学年に応じて、参観者が来る旨とその理由を児童に説明し、普段通りの授業が行われるようにする。
- ・授業者、参観者（必要に応じて児童）は、授業後に評価シートを用いて簡単な評価を行い、記録しておく。

### 事 後

- ・授業者、観察者（必要に応じて児童）は、評価シートを用いた評価の結果を参考にしながら、できるだけ間を置かず、小グループでの振り返りを必ず行う。

- ・評価結果を参考にしながら明らかになった相違点などを話題にするとよい。
- ・授業者は、振り返りの内容などを踏まえて、「My 授業研の振り返り」を記録する。
- ・授業者は、振り返りを基に新たな課題を設定し、次回にむけて授業改善に努める。

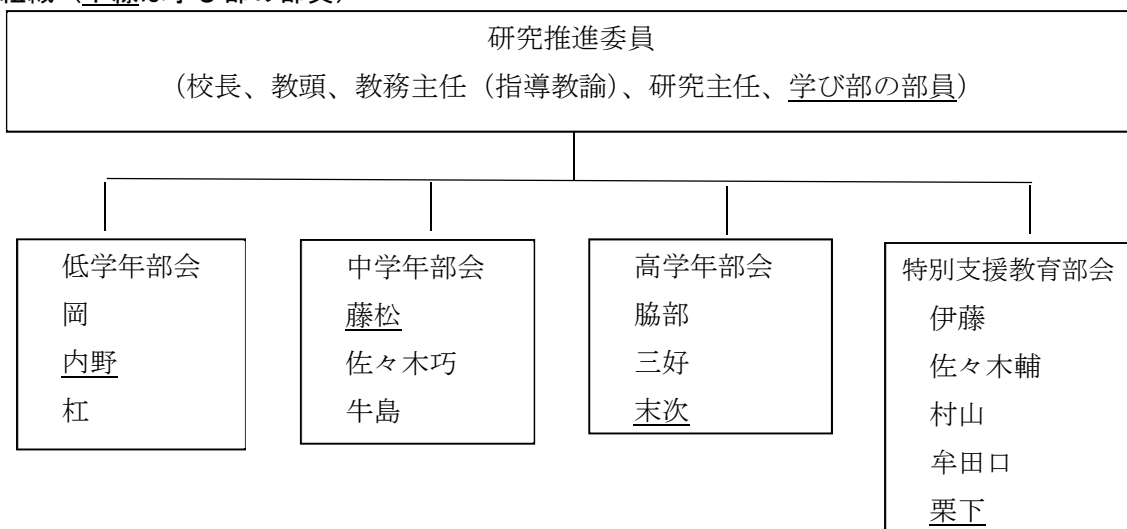
#### 年間を通して

- ・小グループでの振り返りの内容や課題解決の進捗等について、全体での共有を図るための機会を全体研として学期に一度程度、位置付ける。

#### 年度末

- ・年間4回の授業の振り返りを「My 授業研の振り返り」にまとめるとともに、自らの年間を通した課題解決の状況や達成度、次年度に向けての課題などについての振り返りをA4ワンペーパーにまとめて、「研究のまとめ」とする。

### 5 研究の組織（下線は学び部の部員）



※指導教諭は自らも他の教師と同様に取り組み、範を示すとともに、できる限り、全ての教師の授業を参観し、小グループでの振り返りに参加するなどして指導教諭として指導助言を行う。

※管理職（校長・教頭）についても、可能な範囲で全ての教師の授業を参観し、要請に応じて、小グループでの振り返りに参加するなどして、指導助言を行う。

